

シュロダー厳選グロース・ジャパン

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第27期(決算日2023年9月11日)

作成対象期間(2023年3月11日～2023年9月11日)

第27期末(2023年9月11日)	
基準価額	29,999円
純資産総額	420百万円
第27期	
騰落率	12.4%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は期末の基準価額に分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「シュロダー厳選グロース・ジャパン」は、このたび第27期の決算を行いました。

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目的として積極的な運用を行います。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記の委託会社のホームページの「投資信託一覧」から当ファンドを選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

シュロダー・インベストメント・マネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館21階

当運用報告書に関するお問い合わせ先

- ・投資信託営業部 電話番号 03-5293-1323
- ・受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日は除く)
- ・インターネットホームページ <http://www.schroders.co.jp/>

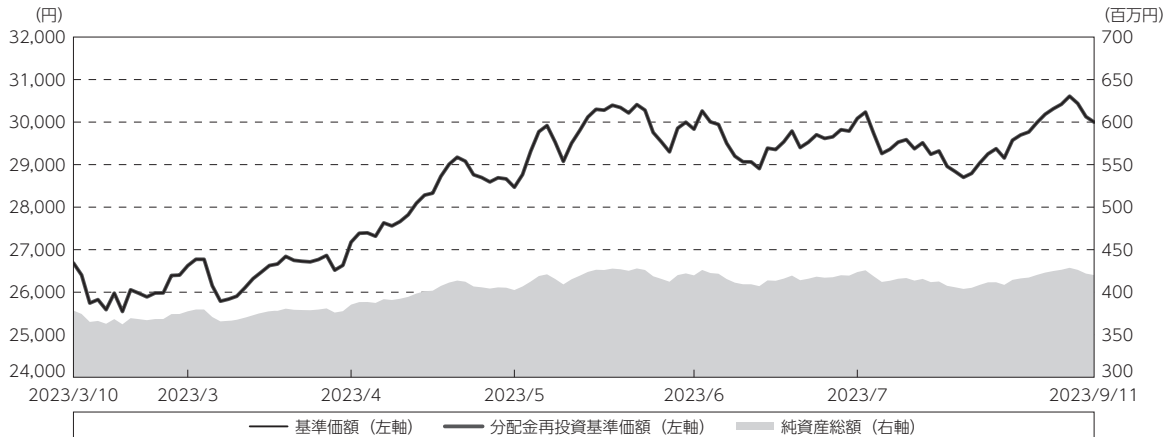
Schroders

シュロダー・インベストメント・マネジメント

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2023年3月11日～2023年9月11日)



期首：26,686円

期末：29,999円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：12.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2023年3月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

○基準価額の主な変動要因

期首26,686円でスタートした基準価額は、29,999円(分配後)で期末を迎え、期首比12.4%(分配金再投資ベース)の上昇となりました。

日本株式市場全般に力強い上昇となりました。一方で、割安株が強い相場が加速し、金利上昇を受けたグロース株の株価調整がマイナスに影響し、基準価額は上昇したものの市場に出遅れる結果となりました。

オフィス回帰やオフィスの移転などリニューアル需要が好調に推移し、製品値上げ効果による堅調な業績ならびに配当性向目標の引き上げを発表したオカムラ、堅調な国内事業に加えて海外事業の底打ちによる業績改善の期待が高まった野村総合研究所、海外製品の価格上昇効果等を背景に堅調な業績を発表し、今後もPC更新需要の取り込みによる業績拡大への期待感が高まった大塚商会等で株価が上昇したことにより、ファンドのリターンにプラスに貢献しました。一方で、グロース株の株価調整の影響に加えて、主に製造業で中国事業の減速懸念などが大きくなり、受注動向の反転には時間を要するとの見方が強まったハーモニック・ドライブ・システムズ、四半期決算の内容が弱かったSMC、人件費負担の増加に伴う利益率の低下が嫌気されたキーエンスなどで株価が弱く、マイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細

(2023年3月11日～2023年9月11日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	231 (112) (112) (8)	0.806 (0.389) (0.389) (0.028)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用判断、受託会社への指図 ・基準価額の算出ならびに公表 ・運用報告書等法定書面の作成、および受益者への情報提供資料の作成等 ・運用報告書等各種書類の交付 ・口座内でのファンドの管理、および受益者への情報提供等 ・ファンドの財産保管・管理 ・委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料 (株 式)	4 (4)	0.013 (0.013)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (そ の 他)	16 (3) (13) (0)	0.056 (0.010) (0.045) (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、印刷会社等に支払う運用報告書作成等に係る費用 ・その他は、金銭信託手数料等
合 計	251	0.875	
期中の平均基準価額は、28,696円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

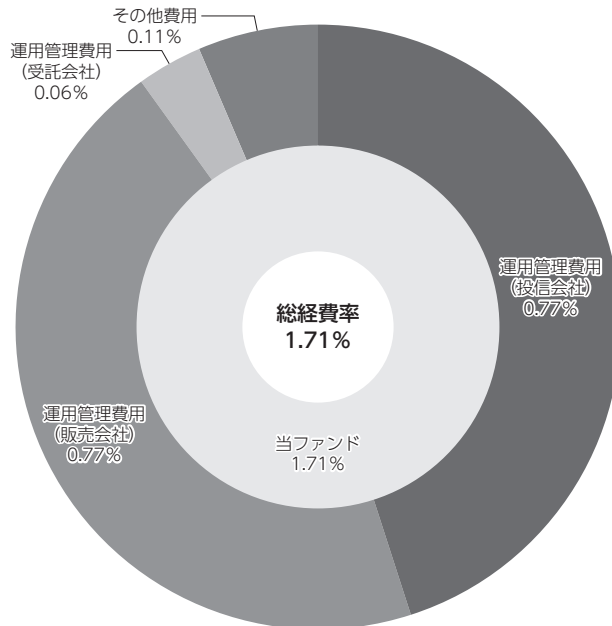
(注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.71%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年9月10日～2023年9月11日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2018年9月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年9月10日 決算日	2019年9月10日 決算日	2020年9月10日 決算日	2021年9月10日 決算日	2022年9月12日 決算日	2023年9月11日 決算日
基準価額 (円)	23,289	21,836	24,219	32,419	27,467	29,999
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.2	10.9	33.9	△ 15.3	9.2
純資産総額 (百万円)	555	496	434	490	390	420

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

投資環境

(2023年3月11日～2023年9月11日)

日本株式市場は、上昇基調を維持し、2023年5月以降は外国人投資家の日本株式の買いが加速して、6月にはバブル後最高値を更新するなど、期を通じて大幅な上昇となりました。

2023年3月10日（現地時間）にSVB（シリコンバレーバンク）が破綻したことをきっかけに、世界的な株安で当期は始まり、米シグネチャー・バンクの破綻などから金融不安が広がり、金融株を中心に大きく売られる動きとなりました。しかしながら、経営不振に陥っていたクレディ・スイスをUBSが買収すると報じられたことや、金融危機を回避するために世界の中央銀行が協調してドル供給を強化すると発表したことを受けて、3月後半からは信用不安が後退し、相場環境が急回復しました。その後、米国の景気減速懸念から一時的に売られる局面もありましたが、米国の著名投資家が日本株式に対して強気な見方を示したことや、日銀の金融緩和継続による円安の進展、そして企業業績で想定以上に堅調な本決算を受けて、市場は底堅く推移しました。5月以降、堅調な企業決算に加えて、資本コストを意識した経営を求める東京証券取引所の要請を受けて、ガバナンス改革の進展、株主還元強化の期待感から海外投資家を中心に買いが広がり、日本株式は続伸しました。6月は、月初に波乱要因と懸念された米国の債務上限問題が解決に向かったことから堅調な相場が続ぎ、円安の流れも加速して、日経平均は33,000円台に乗せてバブル後の最高値を更新しました。7月に入って最高値をさらに更新した後、世界景気の先行き不透明感から欧米株式市場が下落し、日本株式市場も利益確定売りの影響もあって下落しました。しかしながら中旬以降は、米国のインフレ率が落ち着いてきたことから9月以降の利上げ見送りが意識され、相場は上昇しました。7月末に、日銀が金融政策決定会合において、イールドカーブ・コントロール（YCC）政策の運用柔軟化を決定したことや、米国国債が格下げされた影響もあって一時的に相場が混乱しましたが、日銀の金融緩和姿勢が不変であることや、それを受けた円安の進行、そして好調な四半期決算が市場を支えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2023年3月11日～2023年9月11日)

当ファンドが主要投資対象としているシュローダー厳選グロース・ジャパン・マザーファンドの運用について

中長期で持続的な利益成長を達成することができる競争優位性と独自の成長ドライバーを持った日本企業を厳選したポートフォリオを構築しています。世界トップシェアで高収益かつ持続的成長が見込まれる「グローバル・ニッチ・トップ」、将来のリーディング企業として今後の成長が期待される「ネクスト・リーディング・カンパニー」、市場で見過ごされている株価の上昇余地が大きい「ノン・コンセンサス・グロース」といった特徴あるグロース企業を厳選して集中的に投資しています。

グローバルな基準で見た競争優位性や企業独自の成長要因を重視した銘柄選択を行った結果、業種別には「情報・通信業」、「機械」、「電気機器」等の投資配分が大きくなっています。個別の保有銘柄では、エレクトロニクス、ゲーム、音楽、映画、金融事業などからなる複合企業で高い成長力が期待できるソニーグループ、ソリューション提案型の営業に強みを持つファクトリーオートメーション大手のキーエンス、世界的なエアコンメーカーで省エネ・環境性能の高さで成長期待も強いダイキン工業、工場自動化での需要が強い空気圧機器の世界トップメーカーであるSMC、国内最大規模の事業コンサルティング部隊に強みを有するITサービス大手である野村総合研究所等、40銘柄となっています。

主な投資行動では、眼科分野での新薬パイプラインが期待できる参天製薬、ニッチ分野での主力製品の需要拡大が期待できるフルヤ金属、賃金上昇や転職意欲の高まりなど業績恩恵が期待されるビジョナ

ル、原材料高の影響緩和に製品ミックスの改善による利益率の拡大が期待できるブリヂストン、価格改定による業績恩恵が期待されるタカラスタンダードを新規に組み入れました。一方で、銘柄入れ替えを進めた結果、三菱総合研究所、いすゞ自動車、フクシマガリレイ、トラスコ中山、サイバーエージェントを全売却としました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年3月11日～2023年9月11日)

当ファンドの値動きを表す適切な指標が存在しないため、ベンチマーク等は設けておりません。

分配金

(2023年3月11日～2023年9月11日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向、信託財産の規模等を考慮し、当期の収益分配は見送らせていただきました。なお、留保益については、特に制限を設けず、当社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第27期
	2023年3月11日～ 2023年9月11日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	22,551

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

今後の日本株式市場については、長期的には強気の見方を維持しており、国内景気や企業業績は堅調ですが、短期的には米国景気の減速や中国経済の悪化など海外のリスク要因にも注意が必要だとみています。日本企業の業績に関しては、2023年度の期初ガイダンスは営業増益予想となり、第1四半期決算において上方修正を行う企業も見られ比較的堅調な業績推移となっています。インバウンドを含めた内需の回復、円安の恩恵なども背景に、足元でリビジョン指数もプラスで推移しており、半期決算に向けて上昇修正が進むことも期待されます。一方で、マクロ面で各国の中央銀行による金利引き上げに伴う世界景気への悪影響が懸念される状況は継続しており、中国経済については不動産セクターでの問題に注目が集まっています。日本株式市場のバリュエーション（価値評価）面では割安感が薄れていますが、市場のセンチメントの良好さや業績予想の上方修正などが相場を下支えするものとみています。

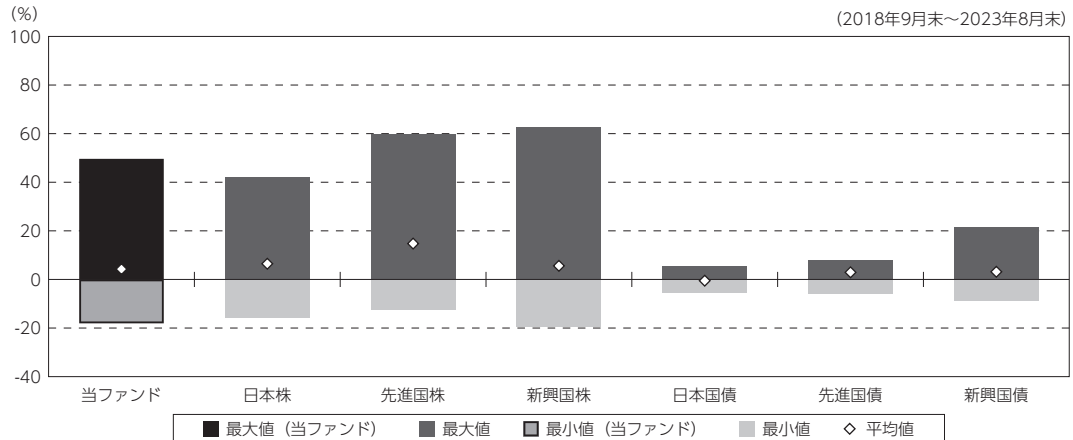
引き続き、独自の成長要因を持ち、中長期で高い利益成長が期待できる企業の中から、業績見通しや成長の持続性に加えて、マクロ環境の変化に対する収益の安定性や株価バリュエーションにも留意したうえで、中長期の視点で上昇余地が見込める銘柄への保有を増やしていく方針です。不安定な市場環境でプレミアム評価が剥落している有望な企業にも注目して投資機会を探っていきます。今後も企業の競争優位性と長期成長ドライバーを重視する独自の銘柄選択基準で、グローバルで通用する高い競争力を有し、持続的・構造的な成長要因を持ったグロース企業を厳選して集中投資して参ります。引き続き、特徴あるグロース企業を厳選した運用ポートフォリオを構築し、長期の運用パフォーマンス向上に繋がっていきたいと思います。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2010年5月28日から2028年3月10日まで	
運用方針	信託財産の中長期的な成長を目的として積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	シュローダー厳選グロース・ジャパン・マザーファンド受益証券とします。
	シュローダー厳選グロース・ジャパン・マザーファンド	中長期で高い利益成長を実現できると期待される日本企業の株式とします。
運用方法	マザーファンドへの投資を通じて、中長期で高い利益成長を実現できると期待される日本企業の株式を中心に投資を行います。株式等の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。	
分配方針	毎決算時（毎年3月10日および9月10日。ただし当該日が休業日の場合は翌営業日）に、利子・配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等から基準価額水準、市況動向等を勘案しながら決定します。 なお、分配を行わない場合があります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	49.6	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 18.1	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	4.2	6.5	14.8	5.6	△ 0.5	2.9	3.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年9月から2023年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年9月11日現在)

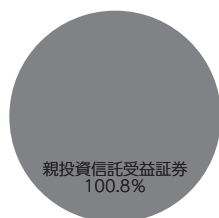
○組入上位ファンド

銘柄名	第27期末
シュローダー厳選グロース・ジャパン・マザーファンド	100.8%
組入銘柄数	1銘柄

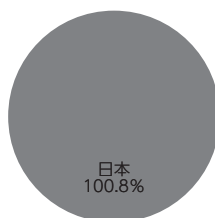
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

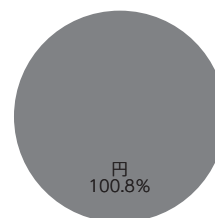
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

純資産等

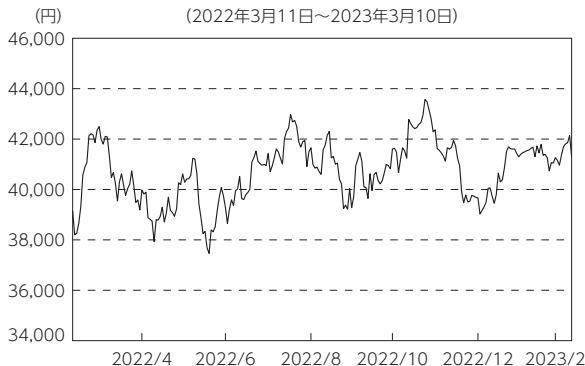
項目	第27期末
	2023年9月11日
純資産総額	420,116,757円
受益権総口数	140,041,484口
1万口当たり基準価額	29,999円

* 期中における追加設定元本額は575,307円、同解約元本額は2,338,627円です。

組入上位ファンドの概要

シュローダー厳選グロース・ジャパン・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年3月11日～2023年3月10日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	12 (12)	0.029 (0.029)
(b) その他の費用 (その他)	0 (0)	0.001 (0.001)
合計	12	0.030

期中の平均基準価額は、40,799円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券(投資証券等を含む)が支払った費用を含みません。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

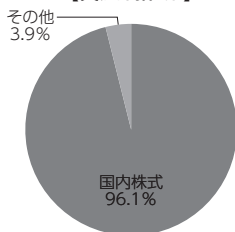
【組入上位10銘柄】

(2023年3月10日現在)

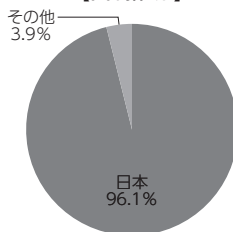
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	ソニーグループ	電気機器	円	日本	4.9
2	キーエンス	電気機器	円	日本	4.7
3	ダイキン工業	機械	円	日本	4.3
4	SMC	機械	円	日本	3.7
5	東京海上ホールディングス	保険業	円	日本	3.3
6	シップヘルスケアホールディングス	卸売業	円	日本	3.2
7	スズキ	輸送用機器	円	日本	2.8
8	オリックス	その他金融業	円	日本	2.8
9	いすゞ自動車	輸送用機器	円	日本	2.8
10	豊田自動織機	輸送用機器	円	日本	2.7
	組入銘柄数		40銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

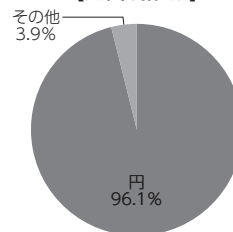
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

〈代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について〉

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

MSCIは、本資料に含まれるいかなるMSCIのデータについても、明示的・黙示的に保証せず、またいかなる責任も負いません。MSCIのデータを、他の指数やいかなる有価証券、金融商品の根拠として使用する、あるいは再配布することは禁じられています。本資料はMSCIにより作成、審査、承認されたものではありません。いかなるMSCIのデータも、投資助言や投資に関する意思決定を行うこと (又は行わないこと) の推奨の根拠として提供されるものではなく、また、そのようなものとして依拠されるべきものでもありません。